

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101397		
法人名	有限会社 ナナカマド		
事業所名	グループホーム ななかまど		
所在地	青森県青森市第二問屋町1丁目7-14		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3-20-30		
訪問調査日	令和2年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりの居室を「家」、食堂を「公共の場」と考え、安心して生活できる居室づくりを目指している。また、地域に住む一人として、役割を持ち、安心して生活できる家を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症になっても役割を持ち安心して生活できるような場所を作りたいとの思いから平成14年に設立したホームであり、職員は利用者に暖かく家庭的な雰囲気の中で過ごしていただけるようケアに取り組んでいる。令和元年7月に建物の老朽化等の理由から現在の場所に移転した。令和2年に入ってコロナ禍により感染予防対策を第一としていることから、地域との交流が難しい状況となっているが、様々な工夫をしながらできる範囲での取り組みを行っている。今後は積極的に地域と交流する機会を作り、ホームのことを理解していただいてお互いに助け合える協力関係を構築し、ホームを災害時の避難場所として活用してもらえるようになればと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に住むひとりとして、役割を持ち、安心して生活できる家を目指しています」というホーム独自の理念を共有している。	地域との関わりを意識した文言を盛り込んだホーム独自の理念を作成しており、職員がいつでも目にするように事務室のホワイトボードに貼って共有している。職員は理念の意味を理解し、利用者が地域と関わりながら、役割を持って安心して生活できるようなサービス提供を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会と相談して、ねぶたの囃子を披露していただく等の行事をさせていただいている。また、近所の方々への挨拶等も行い、交流するよう心掛けている。運営推進会議は実施していない。	昨年7月に現在の場所に移転し、町内会に加入して住民との交流機会を作るよう取り組んでいたが、コロナ禍で状況が変わったため、できる範囲で地域との関わりが持てる工夫をしている。車で公園に出かけて公園の向かいにある駄菓子屋で買い物をしたり、今年8月には、ホームにねぶたの囃子方を招き、周辺にチラシを配布して地域住民と一緒に楽しむことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して、行っていきたい。近隣を散歩したり、近所のお店を利用することで、地域の方々に理解していただけるよう働きかけていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用して、地域の方の意見をいただきながら、サービスの見直しや計画を考えていくよう心掛けていく。	移転する前は2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、包括支援センター職員等のメンバーも多かったが、移転後は包括支援センターの区域も変わったためメンバー確保を検討していたところ、コロナ禍で内部での会議となっている。今後は、包括支援センターや町内会長など地域の方々と交えて定期的に会議を開催し、情報交換を行っていく考えである。	地域の情報を得て、よりよいケアに取り組んでいくためにも、包括支援センター職員や町内会長・民生委員などに運営推進会議への出席を働きかけ、定期的で開催していかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価及び外部評価結果の報告や課題について、電話等で指導いただいている。	業務の中で質問や相談がある時は、市の福祉課へ電話したり直接出向いたりする等、日頃から協力関係を築くように心がけている。コロナ禍においては電話やFAX、メール等を利用して情報交換を密に行い、連携を図るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の施錠は行っていない。また、スピーチロック(言葉で相手の言動や行動を制限すること)等にも注意しており、今後も徹底していく事で入居者様が望む生活を目指して支援している。夜間のみ、玄関等は戸締りしている。	3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、ホームの現状を確認するとともに勉強会を行っている。管理者・職員ともに身体拘束は行なわないという姿勢で、スピーチロックにも十分気を配りながらケアに取り組んでいる。玄関は夜間以外は施錠せず、利用者一人ひとりの行動を注意深く見守りし、必要な時は一緒に裏庭に出て花を見たり草取りをしながら気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から職員同士で話し合っているほか、研修の実施を予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もいるため、普段から学ぶ機会を持ち、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に、入院時や事故があった場合の対応や看取りに関しての説明をして同意をいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や電話連絡時を利用して、要望等を聞くように心掛けている。また、意見箱を設置している。	利用者との信頼関係を大切に、話しやすい環境作りを心がけて、表情やしぐさからも察するように努めている。家族には毎月請求書や金銭管理簿とともに利用者の写真を送って暮らしぶりを報告している。また、面会時や電話連絡時に意見を聞けるよう働きかけ、意見・要望等が聞かれた時は申し送りやカンファレンス等で話し合い、対応策を検討する体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートや申し送りの時間を利用して、職員の意見を聞く機会を作っている。また、職員会議の時間を作るように検討中である。	各ユニットのケアマネージャーを中心として申し送りの時間や業務の合い間を利用して自由に意見交換し、ケアに反映させていく体制となっている。代表者も度々ホームを訪れて職員皆に声を掛け、話しやすい環境が作られている。全ての職員と利用者が馴染みの関係になることや、ケアの均等化を図ることを目的に、今後はユニット間での異動も検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの努力や実績を把握している。また、職員の意見をできる範囲で反映し、より良い職場環境を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を実施していく。研修には個人で参加しているため、意見交換の場を作っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターとの交流を積極的に行い、他グループホーム等との交流を行っていききたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に、入居者様やご家族様より情報をいただき、安心して生活していただけるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族様の不安や要望を理解し、支援するように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居契約前の面会や関係機関からの情報等で、必要な支援を検討して、入居者様やご家族様と話し合い、対応するように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に生活する」姿勢を忘れずに、支援するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等の連絡や広報等を利用し、ご家族様の負担にならないように配慮しながら、一緒に支援していくように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人等からの連絡等については、これまでの関係が途切れないように心掛けている。	家族以外にも友人や知人等の面会を自由に受け入れている。現在はコロナ禍のため、感染防止対策を行ったうえで他の利用者達から離れた場所にある部屋で面会してもらったり、風除室でガラス戸越しで面会している。面会制限がある期間も、馴染みの関係が途切れないよう電話のやりとりを多くする等のお手伝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係に配慮して声掛けをしたり、食堂の席の配置等に工夫して対応している。レクリエーション等を通して、入居者同士が交流できる場面作りを心掛けている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	馴染みの知人等からの連絡等について、これまでの関係が途切れないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、希望や意向を把握するよう努め、支援するよう検討している。	利用者との会話を通して思いを聞けるよう働きかけるとともに日々の生活状況を注意深く観察し、思いや希望、意向の把握に努め、申し送りの時間や申し送りノートを利用して共有を図っている。必要な時には入浴時や共有の場所から離れた場所等で1対1になれる環境を利用してゆっくり話を聞いている。また、家族からも面会時や電話等で情報収集に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様からの情報を通じて、生活のペースやご家族様との関係等を理解して、支援するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の個人記録や情報等で生活のペースを把握し、支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様、関係者の方からの情報や希望を確認して介護支援を作成している。	日々の何気ない会話から利用者の意向を聞けるよう努め、家族から面会時や電話で意見を聞いて、カンファレンスで全職員で話し合いを行って個別の介護計画を作成している。計画実施期間は6ヶ月だが、入居後間もない時は期間を短く設定している。期間終了時には評価と見直しを行っており、観察により小さな変化も見逃さず、必要な時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、カンファレンス等を通して、職員の気づきや工夫を実践し、結果を共有することで、見直しにつなげていくように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況や、ご家族様からの希望に対し、できる範囲で対応するよう検討し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行っていないが、以前は地域の公民館を利用したり、他のグループホームと交流を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望する医療機関を受診できるように支援している。	入居時にこれまでの受療状況を把握し、定期的受診や他科受診が必要になったときも含めて利用者と家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。月2回往診してくれる医師以外が主治医となっている利用者の受診の際は、ホーム職員が受診対応しており、希望があれば家族にも同行していただいているが、家族が同行できなかったときは電話で受診結果を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時や往診時、変化があったときの状況報告を確実にやっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会や、医療関係者やご家族様と連絡を取り合いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応は行っていないが、入居者様やご家族様の要望に応えられるように、介護計画の見直しや他の事業所への紹介等を行っている	重度化や終末期の対応は行わない方針である。入居時に本人と家族に説明して、了解を得ている。継続的な医療行為が必要になったときや、ホームに備え付けのベッドや浴室の環境での対応が困難になったときは、随時、話し合って意思統一を図っている。一人ひとりの状態に合った病院や施設への住み替えをスムーズにできるように支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の申し送りやマニュアルの作成、主治医から指導をいただくなどして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を計画しているが実施していない。地域との協力体制について、運営推進会議を利用し検討していく。	昨年の避難訓練には消防署の立ち合いがあり、2階からの避難について助言をもらっている。今年は年2回避難訓練を計画したが、コロナ禍のためまだ実施できていない。12月には助言に沿った訓練を実施予定である。設備点検は年2回業者委託で行っている。災害時に備えて紙コップやパン、レトルトの白飯、カレーなどの食品とストーブ、カセットコンロ、カイロ等を準備している。	2階から車椅子の利用者が安全に避難できる方法について訓練・検討を重ね、早いうちに確立しておかれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の言動を否定したり、拒否しないように心掛けている。	馴れ合いにならないよう言葉遣いや声かけの仕方には注意を払い、プライバシーにも十分配慮して利用者一人一人のペースに合わせたケアができるように努めている。職員休憩所には、守秘義務や個人情報の取り扱い等に関するマニュアルを置いており、申し送りの時間等を利用して度々振り返る機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションの中で、入居者様が希望等を表してくれるような関係づくりを心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等を優先しないよう心掛けて、入居者様のペースに合わせた支援ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回程度の散髪や、入居者様の希望に合わせて髪染めの手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事の盛り付けや、後片付け等を行っている。	系列法人施設の献立を利用者の好みや苦手なもの等に配慮しアレンジして、代替品を用意したり、身体状況に合わせて食事形状を変更する等して提供している。季節に合わせて惣菜やデザートを考えたり、誕生日にケーキを提供する等、食事を楽しんでもらえるような工夫をしている。一人ひとりの状態や意向に合わせて、味付けや盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせて、摂取しやすいように工夫し、主治医の意見を取り入れながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医師からの指導をいただき、毎食後口腔ケアを行っている。入居様一人ひとりに合わせて、見守りや介助等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中の排泄の見直しを行い、できる限り、紙おむつを使用しないように検討しながら支援している。	行動観察により排泄サインに気付き、できるだけトイレで排泄できるよう取り組んでいる。毎日の排尿・排便状況をケースに記録している。トイレ誘導時は、周囲に気付かれないよう小声で話す等して羞恥心に配慮している。夜間の排泄に関しては、家族と相談して睡眠を優先するかトイレ誘導するかを決めて、居室にポータブルトイレを置く等、一人ひとりに合わせた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を考えたり、牛乳やヨーグルト等の乳製品で対応している。また、運動や体操もできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回、入浴日としているが、状況によっては午前のみ週4回程度の入浴を支援している。	通院や行事の予定を考慮して入浴日を決め、週2回は入浴できるよう声掛けしている。拒否が見られる場合は、時間を置いたり声掛けを工夫して対応している。1対1の介助が基本であるが、身体状況等により必要な時は職員2人で介助して、安全に入浴できるよう支援している。熱い湯・長湯等の希望には、職員が注意深く見守りして、体調に支障がない範囲で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの環境を考え、ベッドの高さ、位置、布団等、安心して睡眠できるように心掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や薬剤師の説明、主治医の指示等により確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で食器ふきや掃除等の役割を持っていただくよう心掛けている。誕生会や行事、散歩、体操、レクリエーション等を行い、楽しみや気分転換等につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々のコミュニケーションの中から、入居者様の外出等の希望を把握し、ご家族様等からできる範囲で協力いただきながら支援するよう心掛けている。	季節に合わせた行事を計画するほかに、利用者との会話から聞いた希望をもとにできるだけ外出の機会を作っている。墓参りや馴染みの床屋への外出などの希望があったときは、家族の協力も得てできる限り利用者の希望が叶うよう支援している。現在はコロナ禍のため、思うように外出ができなくなっているため、通院の帰りに買い物をしたり、馴染みになった駄菓子屋に買い物に行く等して気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様自身で金銭の管理が困難な方は、預り金として事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人からの電話等に希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日は中庭を利用してレクリエーションを行っている。テレビの音量や共用スペースの温度、湿度等に配慮している。	ホームはブランコが置かれた中庭を囲んで一周できる造りで、ゆとりを感じる空間となっている。全ての利用者が思い思いに気持ちよく過ごせるよう、利用者同士の相性に配慮して食卓の席を工夫したり、時には一人で寛げるように離れた場所にソファを置くなどの配慮をしている。冬はパネルヒーターの暖房で、加湿器や濡れタオル等で適切な温度と湿度を保ち、コロナ対策として換気にも十分気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のほかに、椅子やテーブル、ソファ等を設置し、読書や交流ができるように環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの物を持ち込む必要性を説明して、使い慣れたものを利用し、生活しやすい居室作りを心掛けている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけ、入居後も必要があればお願いしており、衣装ケースや電気スタンド、テレビ等が持ち込まれている。持ち込みが少ない場合は、利用者と相談して行事の写真や手作りした作品を飾る等、利用者が居室を自分の「家」と思って安心して過ごせるようお手伝いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を間違える方が多いため、目印を工夫している。居室内や食堂は移動しやすい環境作りを心掛けている。		